

リヤスピンドルナット締め付け時の留意点について

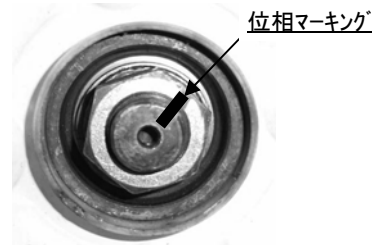
※ 定期点検整備等で後輪ブレーキの分解整備を実施する際には、本留意点に従って適正な整備を実施くださるよう、お願い申し上げます。

※ あらかじめお取引のあるホンダ純正部品取扱店より別紙引換券にてベータピンを無料お取り寄せ願います

●リヤスピンドルナットのマーキング

1. トルクレンチを使用し規定トルク(196N・m)であることの確認をする。
2. トルク確認後、スピンドルとスピンドルナットに位相マーキングをする。

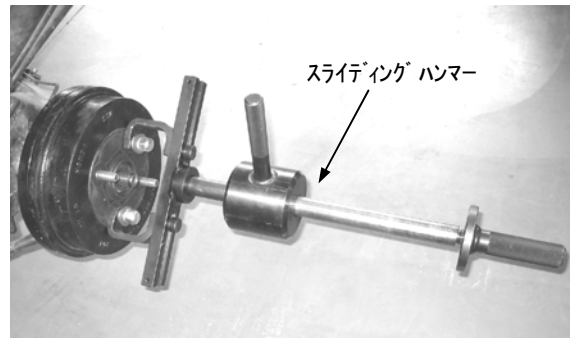
※ 既にマーキングがある車両については、当作業は必要ありません。



●ブレーキドラム取外し時の重要な注意点

1. ブレーキドラムを取り外す際は、必ずスライディングハンマーを使用して下さい。

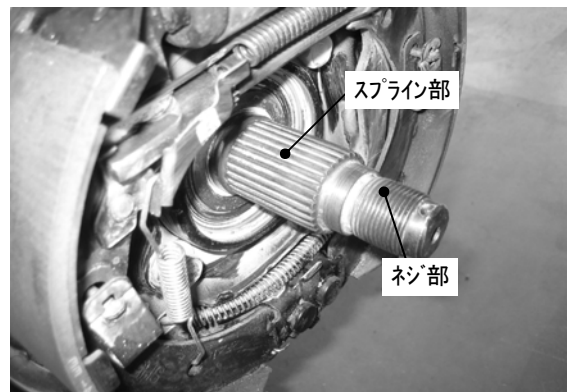
※ スピンドルをハンマーで叩いたり、プーラーで押し込んだりすると、スピンドルが押し込まれ、ドラム圧入代が減少し、正しく取付けられなくなります。



●リヤスピンドルナット締め付け作業要領と重要な注意点

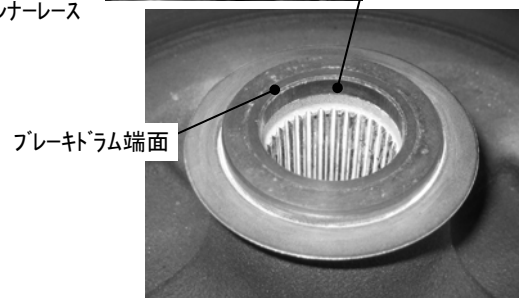
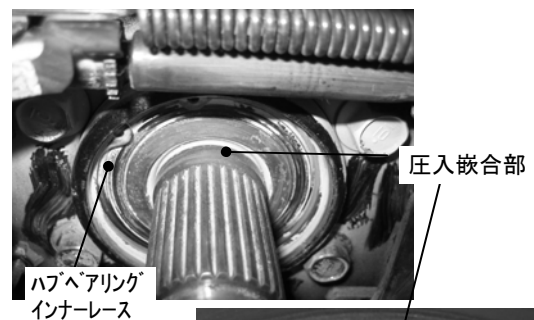
1. スピンドルおよびブレーキドラムのスプライン部とネジ山部を目視点検し、損傷や異物・錆付着が無いことを確認する。

* スプラインやネジ山に損傷や異物噛み込みがあると、ねじ込む際のカジリや抵抗となり、見掛け上のトルクは上がるが、締め付け力(軸力)は上がりません



2. ハブベアリングインナーレースとブレーキドラムの当たり面と圧入嵌合部に損傷や異物・錆付着が無いことを確認する。

* 当たり面や圧入嵌合部に損傷や異物噛み込みがあると、正規の圧入状態になりません
異物や錆が有る場合は、必ず清掃や修正を行い、傷・損傷が有る場合は新品部品に交換してください



3. スピンドルのスプラインに合わせてブレーキドラムを突き当たるまで挿入する。

4. スピンドル先端にワッシャ(2枚)をセットする。

5. ナットの座面部とネジ部にオイルを薄く塗布し、ナット座面が当たるまで工具を使わず手で仮締めする。

* ネジ山や座面接触部の滑りを良くし、ねじ込む際のカジリや抵抗を減らすための重要な作業です

* インパクトレンチでの締め付け厳禁

6. タイヤ/ホイールを取付け、タイヤを接地させた状態で必ずトルクレンチを使用し規定トルクまで締め付ける。

* 規定トルク : 196N・m(20.0kgf・m)
圧入および軸力を保証するには、規定トルクを厳守することが絶対に必要になります

* トルクレンチは規定トルク以上測定できる物を使用すること

* ブレーキ作動での回り止めはNG!

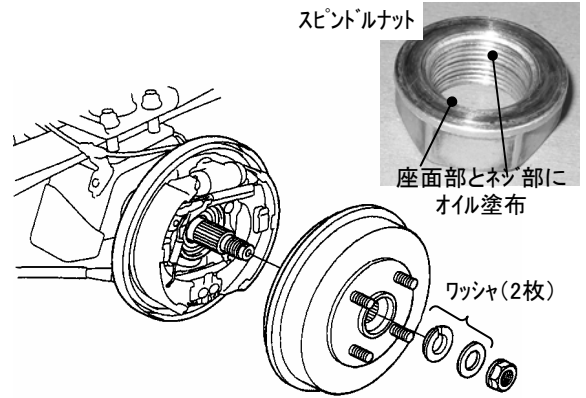
ブレーキ作動ではドラムが固定されてしまいトルクが上がっても圧入はされません

7. 締め付け後、スピンドルとスピンドルナットのマーキングがほぼ合っている事を確認する。

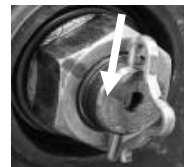
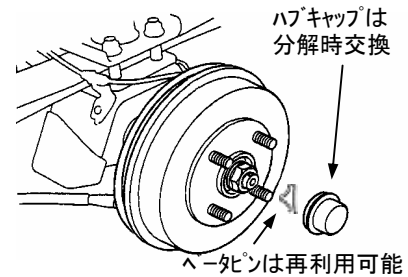
8. ベータピンを手でセットし、新品のハブキャップを確実に取り付ける。

* ベータピンが手でスムーズに入らない場合はブレーキドラムが正しく組みつけられていないため、再度ブレーキドラムを取外し、嵌め合い部を点検してから組付け直して下さい

* 次回以降のブレーキドラム分解時はベータピンを再利用して下さい



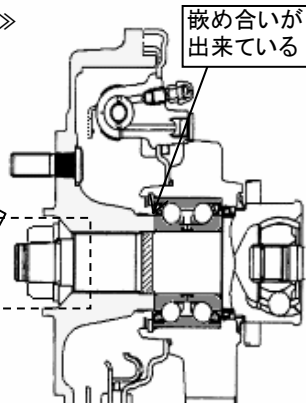
* 写真のトルクレンチは560N・mまで測定可能な物です



《ベータピンが入る状態》



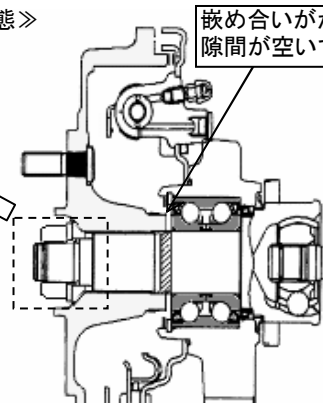
ベータピンが手で入る



《ベータピンが入らない状態》



ベータピンが手で入らない



ベータピンが手で入る場合は、正しい組付け作業により確実な嵌め合いができています

ベータピンが手で入らない場合は、組付け状態に誤りがあり、確実な嵌め合いができていません
 再度ブレーキドラムを組付け直して下さい

※詳細は(社)日本自動車整備振興会連合会の「技術情報」誌を通じて整備案内をさせていただいております。